



6月20日にB & G 滝川海洋センターで開催された「こどもワークショップ」では、子どもたちが自由に「ミライの学校」をカタチにしました。

滝川の学校、これからどうなるの？ー統合・再編の進め方ー

児童生徒数の将来推計によると、市内すべての小・中学校で児童生徒数の減少が今後も継続すると見込まれ、現在の学校数のままでは、ほとんどの学校で各学年1学級の小規模化が避けられません。

また、校舎の老朽化も進んでいます。すべての小・中学校の更新、維持は難しい状況です。

現状を十分に考慮し、小・中学校の通学区域の一致なども踏まえながら、学校の適正規模を確保するために、将来的な小・中学校の方向性を見直しました。



小学校の方向性 6校 ⇒ 4校（令和13年度）⇒ 3校（令和18年度^{めど}）

滝川第一小学校に西小学校・江部乙小学校を統合（令和13年度）

滝川第一小学校に滝川第二小学校を統合（令和18年度^{めど}）

滝川第一小学校
6学級 134人

西小学校
6学級 136人

江部乙小学校
6(3)*学級 27人

滝川第二小学校
7学級 168人

滝川第三小学校
8学級 188人

東小学校
13学級 357人

【滝川第一小学校建替による統合】12学級 297人

令和18年度^{めど} 適正配置計画
統合予定

*江部乙小学校の（ ）は複式学級の編成基準による場合

児童・学級数は令和13年度の推計（住民基本台帳による）

中学校の方向性 3校 ⇒ 2校（令和13年度）

江陵中学校に開西中学校を統合（令和13年度）

江陵中学校
7学級 208人

開西中学校
4学級 101人

明苑中学校
10学級 305人

【統合】10学級 309人

生徒・学級数は令和13年度の推計（住民基本台帳による）

滝川市小・中学校適正配置計画の内容や、今後の詳しいスケジュールなどは市公式ホームページ（ページID：2774）から見ることができます。



「適正配置計画」



Q 統合で生じる児童生徒の心理的負担にどのような対策をしますか。

A 子どもたちの気持ちに寄り添い、円滑に新しい環境に移行できるよう、統合校同士の「事前交流学習」を実施する予定です。統合後も児童生徒が安心して通える学校づくりを進めていきます。

Q 統合後の児童生徒の通学手段はどうなりますか。

A 市では、通学の徒歩圏を小学校でおおむね2km以内、中学校でおおむね3km以内を基本としています。統合後もこの基準を基本として通学方法を検討しますが、徒歩圏外となる地域はスクールバスの運行なども含め、児童生徒に過度な負担が生じないよう配慮していきます。

学校の統合や再編、滝川第一小学校の建て替えなどは今後も広報たきかわを通じてお知らせしていきます。

知っておきたい 特 集 これからの学校のこと

児童生徒数の減少や施設の老朽化が見られるなか、市内の小・中学校では、将来にわたって質の高い教育環境を維持するための学校づくりを進めています。

学びの主役である子どもたちの未来を見据えた、これからの学校配置と滝川第一小学校建て替えについてお伝えします。

未来を見据えた学校づくり
「適正配置計画」

児童生徒数の減少に伴う学校の小規模化に対応し、将来にわたり、より良い教育環境を確保するために、市は平成19年11月に『滝川市立小・中学校適正配置基本方針』を定めました。

基本方針に基づき、教育の質を維持・向上させ、子どもたちが安心して学べるよう、学校の規模や配置の基本的方向性を定めたのが『滝川市小・中学校適正配置計画（以下、適正配置計画）』です。

適正配置計画は平成22年11月に策定され、第1期計画期間を経て、現在第2期計画期間（令和3年度～令和12年度）に入っています。

より良い教育環境を確保する
新たな学校づくり

第2期計画策定から5年が経過し、児童生徒数の減少傾向が続くなか、学校を取り巻く環境に大きな変化が現れている状況であり、学校の規模や配置を見直すことが必要となりました。

教育環境を維持するための適正規模を下回る場合には学校の統合を行い、教育環境の維持・充実を図る必要があります。

未来へつなぐ学校のカたち ー適正規模の考え方ー



学校は、多様な考え方や個性を持つ児童生徒が共に学び、集団生活を通して学力や体力の向上を図るとともに、豊かな人間性や社会性を育む場です。

こうした、学校の持つ社会的役割に応えるためには、教育の質を保障できる一定の学校規模の確保が必要です。

学校の「適正規模」について3つの視点から考え、令和8年4月に適正配置計画の改訂を行いました。

3つの視点① 教育指導

一定の集団規模により、児童生徒が切磋琢磨することで多様な活動を展開できる学校規模

児童生徒数が少ないと、運動会や修学旅行などで行えることが限られるよね。

3つの視点② 学校運営

教員が協働して教育活動や分掌業務^{*}、研修活動等を展開できる学校規模

^{*}学校を運営するために教員が分担して行う、授業以外の業務

先生同士が相談したり、協力したりすることで、きめ細やかな指導につながるんだね。

3つの視点③ 人間関係

学級編成等を通じて多様な人間関係を経験し、学び合い、支えながら社会性や協調性を養うことができる学校規模

クラス替えができることで、多様な人間関係を築くことができるね。

3つの視点からの適正規模

小学校：12学級～18学級（各学年2学級～3学級）／1校あたり

中学校：6学級～18学級（各学年2学級～6学級）／1校あたり

ぼくたち、わたしたちの「ミライの学校」座談会

統合を予定している滝川第一小学校・西小学校・江部乙小学校の児童が新しい学校について語り合いました。

どんな学校にしたい？不安なことは？その不安はどうしたら解決できそう？将来、後輩が通う未来の滝川第一小学校について率直な意見を出し合ってもらいました。



ーみなさんは、滝川第一小学校と西小学校、江部乙小学校が一緒になって、新しい滝川第一小学校になることを知っていましたか。

全員…知っていました。

ー3つの学校が一緒になると、どのようないいことがあると思いますか。

渡邊（第一）…今より人数や教室が増えるから、交流イベントなどを開催することで、ほかのクラスや違う学年との交流がもっと増えると思う。

上田（江部乙）…友達がたくさんできて、遊んでくれる人がたくさんできるところ。6年生だけではドッジボールとかできなかったけれど、人数が多くなれば、そういうことも全校児童が集まらなくてもできるようになるから。

ー反対に、違う学校の人たちと一緒にすることで、けんかしそうだなとか、仲良くなれるかなとか、心配や不安はありますか。

全員…ないです。

ーもし自分たちが新しい学校に行くとしたら、行きたいですか、今の学校のままがいいと思いますか。

全員…（新しい学校に）行きたいです。

ーこれから後輩たちが通う新しい滝川第一小学校がどのような学校になって欲しいと思いますか。

大川（西）…西小学校のいいところは、にぎやかなところなので、にぎやかな学校になったらいいなって思います。

田中（江部乙）…先生とか児童同士であいさつができる学校になってほしい。あと、けんかも起こってもいいけれど、ちゃんと仲直りができるように。

ー登下校の見守りや学校行事など、地域の人たちとの関わりも多いと思います。新しい学校でも、地域の人の関わってほしいと思うことなどはありますか。

高橋（第一）…『一の坂市場』っていうイベントがあって、ゲームをしたり、ポッポコンや綿あめが売っていたりします。それに地域の人たちがもっと参加できるようにになったら交流が深まると思います。

依田（西）…今年の夏、西小学校の駐車場でお祭りがあって、地域の人も他校の人も来ていて楽しかったから、第一小学校と統合しても一度はやってみたいと思います。

田中（江部乙）…『乙っ子集会』というのがあって、名前が江部乙の『乙』から取っていて、みんなが集まるという意味です。名前は乙っ子集会じゃなくてもいいから、そういう集まる会みたいなのを統合後も続けて欲しいなと思います。

ー最後に、統合で急に友達が増えることで不安になる人もいます。不安を解消するための行事やイベントなど、何か良い提案があれば教えてください。

あ 時代の变化とともに、学校を取り巻く環境は変わっていきます。

と しかし、いつの時代も子どもたちが主役であり、子どもたちにより良い学びの環境を届けたいという願いは変わりません。

が 子どもたちの未来を見据え、地域の皆さんとともに学校づくりを進めていきます。

高橋（第一）…統合して古い校舎を壊す前に、みんなで校舎にペンキを塗ったり、言葉を書いたりする。その1回限りしかできないことだから。統合前にみんなで運動会をやって楽しむのもいいかも。

田中（江部乙）…新しくできた「あそりバ」に第一小と西小の人と一緒に行く。

渡邊（第一）…第一小学校のグラウンドで統合する学校の児童同士全員で鬼ごっこをする。児童が江部乙小に行ったり、西小に行ったり、いろいろな学校に行ってみて、その学校を体験してみる。

上田（江部乙）…同じ学年同士で見学旅行みたいみんな公園とか行って遊んだりするとか。

大川（西）…3校でお祭りをやりたい。（出店するなら）綿あめのお店を出します。

依田（西）…夏にみんなで水遊びをしたいです。どこかの学校のグラウンドを使って、べちゃべちゃになるまで水遊びをしたい。

お話をしてくれた6人のみなさん、ありがとうございました。

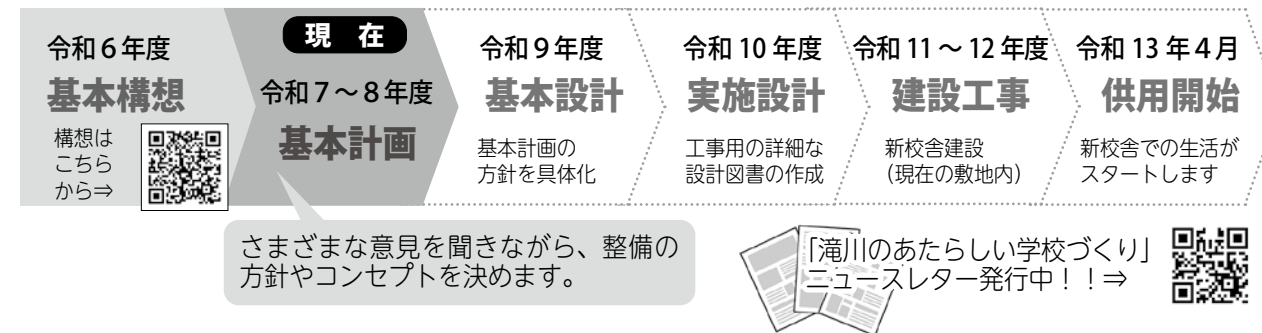
小・中学校施設の老朽化が進むなか、市では令和6年度に「滝川市新小学校整備基本構想」を策定し、令和13年度の滝川第一小学校の供用開始に向けた校舎建て替え計画を進めています。

建て替えの背景、スケジュール、新しい学校づくりへの取り組みなどを見ていきます。

新しい学校づくりの背景

- ・滝川第一小学校は建築後65年が経過し、安全で快適な教育環境を維持するための対策が喫緊の課題となっています。
- ・教育ニーズが多様化し、ICTの活用や児童が主役の授業など、教室の使い方や授業方法は大きく変わっています。こうした変化に対応する「新しい時代の学習空間」の整備が必要です。
- ・子どもたちの学習や生活の拠点としてふさわしい学校とするとともに、近年学校は地域コミュニティや防災の拠点としても重要な役割を担っているため、総合的に施設整備を検討する必要があります。

今後のスケジュール



新しい学校づくりにたくさんのご意見をいただき
ありがとうございました。

教員ヒアリング・アンケート 令和7年10月～11月

子どもにとっての学校はどうなったらよいか、先生にとっての学校は、地域にとっての学校は。教員の皆さんから、新しい学校の将来像を考えるための聞き取りを行いました。

6月9日～10日 オープンワークショップ

滝川神社春季例大祭でパネル展を実施。
学校づくりで大切にしたい視点について市内外あわせて707人の方に意見を聞くことができました。



6月20日 こどもワークショップ

市内6小学校から35人の小学生が集まり、学校の好きなところや、もっとこうなったらいいなを出し合い、「ミライの学校」を工作しました。



7月25日・8月22日 滝川のあたらしい学校づくり ワークショップ

さまざまな立場の人たちが学校に対するお互いの思いを共有し、新しい学校づくりと一緒に考えるワークショップを実施。保護者や地域住民、子どもがいない若い世代や高校生など延べ38人が参加しました。



ワークショップ参加者
曾根英司さん

interview

滝川第一小学校の保護者としてワークショップに参加しました。保護者同士で学校のあり方について話す機会はありませんでしたが、今回いろいろな立場の人と話をすることができ、保護者以外も、新しい学校に期待しているということを感じました。

教育的目線で見ても、地域の力は大きく、学校を支える力として、切り離すことはできません。建物だけではない、教育や地域との関わりを含めた良い学校づくりをしてほしいですね。